

えべつ未来づくりビジョン＜第 6 次江別市総合計画＞素案 市民説明会 開催結果概要

【開催日時・場所等】

- ①平成 25 年 7 月 6 日（土） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 50 分
大麻公民館研修室 2 参加者：16 名
- ②平成 25 年 7 月 6 日（土） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 15 分
野幌公民館視聴覚室 参加者：18 名
- ③平成 25 年 7 月 7 日（日） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
豊幌地区センター会議室 1・2 参加者：5 名
- ④平成 25 年 7 月 7 日（日） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 20 分
中央公民館研修室 2・3 参加者：8 名

【質疑・意見概要】

＜① 大麻公民館＞

質疑・意見

総合計画という指針がどの程度具体的なものになるのか、どのような過程を経て具体化されていくのかがわからない。財政との兼ね合いもあると思うが、継続予算ではどれくらい見積もって、新規事業ではどれくらい見積もれるかという年次計画のようなものがないと、絵に描いた餅になるのではないか。

【事務局】

新しい総合計画では、あくまでも 10 年間のまちづくりの指針を示し、それに基づいて毎年度どのような事業展開をしていくかについては、個別計画や施策展開方針に委ねていくことにしている。毎年度 PDCA サイクルで見直ししながら、財政その他の状況等を加味して、次年度以降の事業展開を施策展開方針の中で定めるということを考えている。

質疑・意見

今回の総合計画の中で、国の基準を下回っているため、国の基準まで引き上げる項目や、国の基準を上回る施策を行う項目などの洗い出しは行っているのか。

【事務局】

基準を見直すためには、財政的な裏付けが必要となる。毎年事業展開を考える中で、各部局では国の基準や他市との比較により、江別市の強みや弱みを把握している。その強みや弱みに対して、今後どのように展開していくかは、施策展開方針を中心として見直していく。

質疑・意見

今回の計画策定にあたって、もっと広く市民の意見を求めるべきで、行政審議会の委員の選考にあたって、一般公募枠を設けなかったことが非常に不満である。この説明会での

市民意見も行政審議会の中に出して、市民意見をきちんと踏まえて審議していただきたい。

【事務局】

計画策定等への市民参加の方法、市民委員の選出方法については、様々な手法があることは理解している。関心のある方に参加していただく一般公募の形もあれば、今回のように無作為抽出により参加していただく方法もあり、どちらの方法にもそれぞれメリットがある。今後、出来上がった計画の見直し作業等が当然出てくることから、その際にはいただいたご意見を踏まえて市民参加のあり方について検討したい。

本日の説明会でいただいたご意見については、行政審議会や各部局との調整の場に報告し、今後の計画策定作業や、実際に総合計画に沿った事業展開を進めるにあたっての参考とさせていただく。

質疑・意見

人口減少社会、世帯人数の減少、景気の低迷などが、えべつまちづくり未来構想の中で謳われている。それは単に人口だけの問題ではなく、将来、稼げる人が減るということである。したがって、GDP（江別市）がどうなるか、そしてそれにどう対応するかということを検討してもらいたい。

【事務局】

戦略2の産業活性化を所管している行政審議会の第2部会で、人口が増えるだけではなく、江別に住んで江別で稼げる体制が無いと、本質的なまちの活力の向上にはならないという議論があった。戦略2では、企業誘致に関して、単に土地を用意するというだけではなく、そこに勤める方に江別に住んでもらえるよう、子育て環境の充実や暮らしやすいまちづくりも同時に進めていくこととしている。

質疑・意見

今のままだと、高齢化により退職者が増えて所得が減ってしまい、その結果、市内全体の消費も減ってしまう。そこで、医療や介護といった分野を、福祉の側面だけではなくて、産業振興の観点で地域に所得をもたらすものとして捉えるべきと考える。教育についても同様で、大学が江別市内に与えている経済効果は非常に大きいので、それも踏まえた議論が必要である。

【事務局】

高齢化により所得が減少することに関しては、今後増加する元気な高齢者の働く場の確保ということで、行政審議会でも議論が出ていた。働く場だけではなく、まちづくりへの参加といった市民活動の場など、様々な場面で活躍していただける場が必要であるという議論がされている。

質疑・意見

江別市のこれからの産業の位置付けについて、建設や環境、医療・介護関連、市内4大学に関する教育など、これらに関する産業をどうするかという議論をすべきである。

【事務局】

行政審議会や庁内議論はまだ今後も続くことから、ご意見については参考にさせていただく。

だく。

質疑・意見

大麻地区の場合、冬期間の除雪の問題が解決すれば、まちづくりにおける課題の約3分の2が解決する。また、まちづくりの中で都市計画についても見直す必要があると考える。

【事務局】

除排雪や雪対策に関しては、都市基盤の政策の中で「冬期間の交通の確保」として、主に除雪について謳っている。もう一つ、安全・安心の政策の中でも「冬期生活環境の充実」として、市民や事業者等との協働によって雪対策に取り組むということを謳っている。

都市計画については、個別計画である都市計画マスタープランを現在見直し中であり、そちらで専門的に議論をしている。

質疑・意見

上下水道のことについて、安心で良質な水道水の安定供給ということくらいしか触れていない。上下水道というのは、生活者にとっては選ぶことができないものであるので、整備を進めるということだけではなく、もう少し議論してほしい。

【事務局】

担当部局とのヒアリングでは、上下水道施設の整備だけではなく、質の向上についても取り組むという話は出ていた。ただ、やはり当面は災害対策として耐震化に重点的に取り組んでいかなければならないと考えているとのことである。

質疑・意見

この素案の内容から、魅力や希望を感じられない。財源のことは気にしなくて良いから、何に取り組めばよいか自由に意見を求めるというやり方も必要ではないか。その意見を採用するかどうかは別問題であるが、そのように新しい分野に向かっていく姿、魅力のある姿が江別市には無いのではないかと感じる。

【事務局】

魅力や希望を感じられないというご指摘については、しっかりと受け止めたい。今回の計画策定にあたってのえべつ未来市民会議の中では、財源のことは別にして、自分たちが考えたこと、やりたいと思ったことを率直にご意見としていただいた。それを、庁内の各部局で検討し、すでに取り組んでいるもの、実行できるもの、できないもの、すぐには無理でも将来的に検討可能なものなどに整理し、その結果を踏まえて今回のえべつ未来戦略をまとめたという経過となっている。今後の計画づくりや、計画の見直し作業等にあたっては、いただいたご意見も踏まえて、どのような形で市民意見を聴取すべきか考えていきたい。

質疑・意見

平成24年9月の江別市議会の一般質問の議事録を見ると、市庁舎の耐震化や建て替えについて、平成25年度には計画が確定するという発言があった。それならば、政策05の都市基盤のところで、新しい市庁舎の建設のことが具体的に記載されるべきではないか。

万が一災害があったときに、市庁舎が壊滅して職員のほとんどが犠牲になるということがあると、まちの機能を回復できなくなる。これは都市計画マスタープランなどの個別計画にも必ず関係してくる話題だと思う。大麻の住民として希望を述べると、市庁舎は野幌地区に移ってきてほしい。これから江別市の１０年以上先を考えたときに、まちの中心も変わっていくということも踏まえて検討していただきたい。

【事務局】

学校の耐震化を優先的に進め、平成２７年度以降に市庁舎の対策を講じるという方向性と聞いている。今回の総合計画でも謳っているように、駅を中心として都市活動の拠点とするという方向性であり、移転場所については、その都市機能の一つとして市庁舎も当然検討すべきものと考えている。すべての事業について、費用対効果を検証しながら行う必要があるが、市庁舎の建設についてもその辺りのことを考慮しながら検討していきたいと考えている。そのような状況のため、現段階では総合計画の中に明確なことを記載していないということをご理解いただきたい。

質疑・意見

議会の議事録の中では、明確に平成２５年度中と書かれていたと記憶している。平成２７年度ということは、それを２年先送りするということか。

【事務局】

平成２５年度までに方針をまとめるということで、その方針の中では、耐震化もしくはそれに伴う移転等については平成２７年度以降という報告となっている。市庁舎だけでなく公民館等も含めて、市内の公共施設の耐震化の優先順位としては、まず子どもたちの安全と防災拠点という観点から学校が最優先で、次が避難所となる体育館等、その次が市庁舎という順番になっている。そして当面の対応として、万が一大規模な地震等で市庁舎の機能が停止した場合は、消防本部に災害対策本部機能に移して市内全域のコントロールをするという方針は決めている。ただ、市庁舎の建築となると約４０～５０億の費用がかかるため、それを何年後に建築（または耐震化）するかということまで具体的には決まっていない。議会の答弁で平成２５年度中にまとめるとしていたのは、今後の公共施設の耐震化の優先順位等をどうするか、その方向性を示すということである。

質疑・意見

江別市の財政的には、それくらいの金額を市庁舎にかけられないまちだとは思わないし、ＰＦＩなど様々な形での資金調達の方法もある。学校の耐震化については目処が立ってきたのだから、次は市庁舎ではないかと思う。そのことが総合計画に入っていないと、抽象的なことしか書かれていない計画という印象になってしまう。

質疑・意見

戦略４「えべつの魅力発信シティプロモート」について、一体どこが主体となって取り組むのか。また、江別の魅力を発信するというのは良いことだが、どこに向かって発信するのか。何をどのようにＰＲしていくのか、もう少しわかるようにしてほしい。

【事務局】

シティプロモートに関しては、江別市全体として目的を持って、どのようなターゲットにどのような方法でＰＲしていくかを戦略的に考えていかなければならないと考えてい

る。シティプロモートに限らず、4つの戦略をどの部署が主体となって進めていくかは、庁内で協議をしている段階となっており、来年度の組織編制とも併せて検討中である。戦略として掲げた以上、効果的に進めていく必要があると考えていることから、具体的にお示しできる段階になったときにご説明させていただきたい。

<② 野幌公民館>

質疑・意見

これまでどの大学と、どのような連携を行ってきたのか。

【事務局】

大学連携の事例を紹介。

質疑・意見

「駅を中心としたコンパクトなまちづくり」とあるが、市内の各駅が拠点になるということか。各駅はそれぞれ特色があり、野幌駅周辺であればこのまま発展していくと思うが、江別駅周辺は現在衰退の一途をたどっている。「駅を中心とした」ということの具体的なイメージがわからないので、教えていただきたい。

【事務局】

駅周辺に多様な生活機能を集積するとともに、利便性の高い駅周辺での街中居住ができる環境を整え、かつ、郊外の住宅街に住んでいる方も、そのまま良好な住環境の中で住み続けられるように、公共交通機関等の充実を図ることでまちを維持していきたいという考え方である。各駅の具体的な位置付けについては、現在同時並行で見直しを進めている都市計画マスタープランという個別計画の中で示していく。5駅すべてに集中するわけではなく、江別の顔づくりということで野幌駅を中心核とし、次いで大麻駅周辺と江別駅周辺が拠点となる。そして、今後課題となるのは江別駅周辺だと考えている。江別小学校の跡地利用のことも含めて、江別駅周辺に住んでいる地域の方々が、自分たちの地域をどうしたいのかということについて、意見交換をしながら進めていかなければならないと考えている。

質疑・意見

江別小学校の跡地を人々が集えるような場所にしてほしい。それと、道立工業試験場野幌分場の跡地も空いている。良い場所だと思うので、高齢者が過ごせる生涯学習センターのような施設があったら良いのではないか。

質疑・意見

今回提出した意見について、それを採用するかどうかの審査基準のようなものはあるか。

【事務局】

審査基準というものは特に定めていないが、江別市自治基本条例を制定しており、説明責任を果たすことは重要と考えている。特に今回の総合計画の策定にあたっては、非常に多くの市民の方々に参加していただき、直接意見交換もさせていただいたことから、市民

の方々と意見交換をした内容や、様々な事業展開をしていく中で、なぜそれが実現できなかったのかといったことも含めて、きちんと市民の方々にフィードバックしていきたいと考えている。

質疑・意見

今回は2日間で4つの会場で説明会を行っているが、どのくらいの範囲に素案の説明をする予定か。

【事務局】

今回の市民説明会については、この4つの会場のみであるが、出前講座という制度があり、リクエストをいただければ我々が出向いて説明することは可能である。

質疑・意見

10年間のビジョンであるが、その10年の先にはさらに将来があって、そのプロセスとしてこの10年がある。先ほど人口推移で説明があったように、今後、高齢者人口のピークが70代に移っていき、高齢化社会からさらに「多死化社会」が到来する。そういうことを踏まえると、しっかりとした死生観を持てる社会にしていくということも必要なのではないか。

<③ 豊幌地区センター>

質疑・意見

第5次江別市総合計画では、将来都市像が「人が輝く共生のまち」となっており、今回の計画の中では「協働のまちづくり」という言葉を使っている。この「共生」と「協働」の言葉の意味合いの違いをどのように考えているか教えていただきたい。

【事務局】

「共生」というのは、たとえば高齢者も障がいのある方も健康な方も、どのような方も協力し合って共に生きようという意味合いで使っていた。「協働」というのは、市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政などがそれぞれの役割と責任を理解して、お互いに尊重しながらまちづくりに協力して取り組むということを意味している。これからのまちづくりにおいては、行政だけではなかなかうまく進められない部分も多々出てくることから、色々な方の協力をいただきながら、「協働」でまちづくりを進めていきたいということである。

質疑・意見

「協働」して「共生」するということか。

【事務局】

おっしゃるとおりで、「共生」という考え方が無くなったわけではなく、「協働」という考え方を前面に出してまちづくりを進めていきたいということである。江別市自治基本条例では、市民協働と市民参加ということがメインになっており、その考え方に則って今回の計画を策定しているため、従来は「共に生きる」ということがベースになっていたが、それより一歩進んだ「協働」という形で進めていきたいという趣旨である。

質疑・意見

「協働」で「働」という字を使っているが、学生や自治会、ボランティア団体等は活動しているのであって、働いているわけではない。その辺りの視点がこの計画の「協働」には欠けているのではないか。自治会に対する支援とか、ボランティアに対する支援といったことが書かれているが、実際は市が支援してもらっているのではないか。もともとは市がやるべきことだが予算が足りないから他団体にやってもらうとか、多種多様な行政へのニーズを減らすという趣旨であれば理解できるが、なぜ市が支援をしてもらっているという表現にならないのか。その辺りの部分が「協働」の基本だと思うのだが。

【事務局】

「協働」の考え方というのは、非常に難しい部分だと考えている。すべて行政だけでできる財源があれば問題ないが、そういう状況ではないため、限られた財源の中で市民生活を向上させるために、市民の方々と行政がお互いに協力し合いながら取り組んでいくというのが「協働」の一つの趣旨だと考えている。「協働」という概念そのものが、人によって受け取り方が異なり、行政の方で「協働」で取り組むと言ったときに、すんなり受け入れられる方もいれば、それは本来市がやるべき仕事だと考える方もいて、色々なケースがある。それについては、行政と市民で役割分担をどうしていくかということ話を話合っていく中で解決するしかないと考えている。引き続き市民の方にご理解いただけるように取り組んでいきたいと考えている。

<④ 中央公民館>

質疑・意見

江別はスポーツ施設が充実しているので、国体を招致してはどうか。何十年か前に北海道で国体が開催され、江別でも何種目か競技があった。北海道に招致できるように手を挙げるくらいはできると思うので、よろしく願いしたい。

【事務局】

シティプロモートという戦略も掲げていることから、これからの10年間で江別市の魅力を高めていくための取組が必要と考えているが、個別具体的な取組の検討は、総合計画に基づいてこれから考えていくことになる。また、国体は47都道府県で持ち回りとなっており順番が決まっているため、江別市で特定の種目のみを招致することはできず、北海道全体で国体を招致することになる。

質疑・意見

自転車は車道を走ることになっているが、道路脇に排水口があって走行しにくい。排水を道路の中央にする(センタードレーン)など、自転車が走行しやすいようにしてほしい。

【事務局】

自転車のための環境整備については、えべつ未来市民会議でも議論があった。自転車の環境整備のために、歩行者が通行する部分と自転車が通行する部分に完全に分離した歩道の整備が可能かどうかを検討するとともに、車道の整備にあたっては排水の工夫をすべきというご意見として受け止めたい。

質疑・意見

江別市は東西に国道１２号線が走っており、かなりの交通量があるが、ただの通過点になっている。江別に立ち寄ってもらうために、河川防災ステーションを道の駅にするなど、人を滞留させるための施設として活用する方法を市で考えられないか。江別には農産物をはじめとして様々な物産があるわけだから、道の駅を利用して産業をつくり上げていくということも考える必要がある。国交省の管轄だとか、法律の規制があるからといって、利用しないのはもったいない。

【事務局】

国交省に問い合わせたところ、道の駅にするためには２４時間トイレをオープンしていなければならない。新たにトイレを設置するには莫大な費用がかかるが、既存のトイレを利用できれば解決する問題であるため、運用のあり方に関して規制を緩和してもらうことが必要と考えている。すぐに実現できるかはわからないが、国交省に対して規制緩和の要望をしていくしかないと考えている。江別の地名度を上げるためにも、市内各所に近郊から色々な形で客を呼び込める施設が必要だと考えて、えべつ未来戦略の中でも産業の戦略を盛り込んだところであり、今後具体的な事業展開を検討していきたいと考えている。

質疑・意見

全国的にも全道的にも人口が減っていると言っても、人口が増えている自治体もある。どのような原因で増えているのかを研究しながら、これからのまちづくりを考えていってもらいたい。

質疑・意見

具体的な目標値を数値で設定する必要がある。将来都市像など抽象的な文言だけでは、測定できない目標になり、市民が理解できないと思う。素案の内容自体は悪いところは無いが、具体的に市民一人ひとりが何をすれば良いのかはわからない。１０年という長期の目標設定は難しいと思うので、２～３年ごとに目標設定を変更しながら進めていくべきではないかと考える。

【事務局】

総合計画では全体の大きな方向性のみを示すこととし、具体的な数値目標等は設定していない。そういった数値目標や年次目標等は、分野ごとに定める各部の個別計画や事業計画の中で設定するという構成となっている。

質疑・意見

江別市役所という組織の目標はまちを発展させることだが、その中で人口増加策、産業、教育など様々な分野があって、どの分野も大事だとは思いますが、この２年間はこの分野を重点的に進めるというように、焦点を絞って進めるべきだと思う。

【事務局】

今回の総合計画ではえべつ未来戦略を設定し、重点的に進める分野を設定し、具体的な年次目標や数値目標を定めて進めていくことにしている。現段階の資料ではそこまでお示ししていないが、計画が完成してえべつ未来戦略の具体的な内容が確定した段階で、市民

の皆さんにお示しする予定である。

質疑・意見

地方自治体と国とがうまく連携できていないために無駄が生じている。財政が厳しいからこそ長期的なスパンで、住民の立場に立って考えてきちんと連携しないと無駄になる。また、事業を実施する際には、地域住民と意見交換をした上で、きちんと意見を受け止めて、ニーズを把握して無駄な事業にならないように気をつけて進めるべき。